

第1回 男性の暮らし方・意識の変革に関する専門調査会 議事要旨

(開催日時等)

- 1 日時 平成28年10月28日(金) 14:00~16:30
- 2 場所 合同庁舎8号館5階共用C会議室
- 3 出席者
会長 家本 賢太郎 株式会社クララオンライン代表取締役社長
委員 和泉 昭子 生活経済ジャーナリスト、キャリアコンサルタント
古平 陽子 電通総研 主任研究員
白河 桃子 少子化ジャーナリスト、相模女子大学客員教授
塚本 利幸 福井県立大学看護福祉学部社会福祉学科教授
鍋山 祥子 山口大学経済学部経済学科教授
西本 祥子 北九州市立男女共同参画センター・ムーブ所長
三木 智有 特定非営利活動法人 tadaima! 代表理事、家事シェア研究家
山本 裕介 Google 株式会社ブランドマーケティングマネージャー
Women Will プロジェクト兼務

(議事次第)

- 1 開会
- 2 議事
 - (1) 専門調査会の運営について
 - (2) 関係省庁ヒアリング
 - (3) 自治体ヒアリング
 - (4) 専門委員による提言
 - (5) 意見交換
- 3 加藤大臣挨拶
- 4 閉会

(議事概要)

- 委員の自己紹介を行った。
- 本専門調査会の運営規則を決定し、家本会長から会長代理として白河委員が指名された。
- 本専門調査会の設置目的の説明や男女共同参画会議における議論の報告を行った。
- 続いて、男性の暮らし方・意識の変革に関して現在実施している主な施策について厚生労働省及び内閣府からのヒアリング、自治体の取組紹介(「九州・山口ワーク・ライフ・バランス推進キャンペーン」の取組について佐賀県から発表)、委員からそれぞれの専門分野から提言としてプレゼンテーション(※)を行った上で、意見交換を行った。
- 最後に、加藤大臣から挨拶があった。

(※)

- 資料 6-1 に基づき、白河委員から、「男性の働き方暮らし方の改革が求められる理由」について、父親の育児休業に関する諸外国の事例などを挙げて説明があった。
 - 女性活躍が、労働力不足、経済的観点からも求められている一方で、女性の活躍には男性の家庭参画が不可欠である。また、男性の家庭参画が出生率にも影響することが調査結果で明らかになっている。
 - 男性の家庭参画に必要なのは、社会の意識を転換するためのメッセージ性の強い施策と併せて働き方改革で家庭に時間を返す働き方の見直しである。
 - フランスの父親休暇 14 日間には、意識的に男性を父親にすることが目的とされている（3 日間の出産有給（雇用主負担）に、プラス 11 日間の「子供の受け入れと父親休暇」（国負担））。フランスでも父親の育休取得率は非常に低かったが、政策転換し、男女が平等に仕事、家庭の両方の責任を果たせるようにしていこうという明確なメッセージを打ち出した。
 - 男性の育児休業に対して、家計（収入減）、職場、社会の意識レベルの 3 つが解決すると、取得率が上がる。

- 資料 6-2 に基づき、和泉委員から、「ライフプランニング・キャリアプランニングの視点から見た、男性が能動的に家事・育児に参加する社会を作るにあたっての課題と解決策の方向性について」説明があった。
 - 男性の家事・育児参加が進まない主な理由は、一つは社会通念・意識上の課題。男性が家族を養い女性が家庭を守るという強固な社会的固定観念、育休取得や時短勤務によるキャリア上の機会損失懸念などがある。
 - 仕事型 2 割、家庭型 2 割、状況によってどちらにも動く適応型が 6 割だとしたときに、6 割を動かす要因として、法的なアプローチと、経済的なアプローチで意識改革をしていくというのが有効。
 - 「ライフ・キャリア・レインボー」（D.E.Super 提唱）のような、ライフ・キャリアの考え方を広めていくことが意識改革につながる。
 - 結婚、あるいは子供を産むというライフステージの瞬間を捉えて啓蒙することを提案したい。
 - （人口や所得分布の変化を示して）片働きでは社会も家計も維持不能であることから、女性がマルチタスク化するだけでなく、女性も収入を得ることに頑張るのだから、男性も家事も育児も頑張るといようなアプローチも一つあるのでは。

- 資料 6-3 に基づき、西本委員から、北九州市及び北九州市立男女共同参画センター（ムーブ）における男性の暮らし方・意識変革に向けた取組について、地域特性も踏まえて説明があった。
 - ムーブでは、働く女性対象、ママ・パパ向け、父子講座など様々な講座などを実施しているが、男性対象のエプロン男子、おとこのライフシリーズ（洗濯男子、俺メ

- シご当地グルメ等)、おとこの魅力アップシリーズ(片付け男子等)のほか、介護を学ぶケアメン養成講座などを実施し、よい反響を得ている。
- ▶ 北九州市では、経済団体とか労働団体も参画し、ワーク・ライフ・バランス推進協議会を発足。キャンペーンの実施や、企業への働きかけとしてアドバイザー派遣、出前セミナー、講演会を実施。
 - ▶ 北九州市役所の管理職向けには、幹部職員がまずイクボス宣言をして、平成27年4月までに全管理職が宣言した。イクボス実践度をボーナスに反映。これが刺激となって、全国20政令指定都市の市長が共同でイクボス宣言を行った。
 - ▶ 地域特性を見ると、家庭生活における男女平等達成感、家庭内の仕事分担に偏りがあるデータが出ている。気運の醸成、意識を変革する取組を進める必要がある。
- 資料6-4に基づき、三木委員から、男性が能動的に家事・育児にかかわるための課題について説明があった。
 - ▶ 家事の満足度は、分担割合ではなく、家事についての話し合い(コミュニケーション)が夫婦の中でどれだけ行われているか、時間的、内容的な満足度が高ければ、それに応じて家事に対する満足度が高くなるという調査結果がでた。
 - ▶ いきなり家事・育児の話をしましよと言われても身構えてしまう。漠然としたテーマであるということが一つ問題であると考えられる。ヒアリングの結果、具体的な共通のテーマがあるとき(例えば子供の受験、引っ越し、転職など)、夫婦のコミュニケーションが促進され、そこから広がって、家事の分担や子供のことについて話し合いが行われる。tadaima!では、モヨウ替えというテーマを投入することで、その話し合いのきっかけをつくっている。
 - ▶ 男性に対しては、働く時間を改善して、家庭にコミットできる時間を増やさなければならない。女性に対しては、女性が負い目を感じずに家事・育児を委ねることができる意識改革。特に専業主婦家庭の場合だと、家事・育児は自分だけの仕事なのだと思いつまみ過ぎてしまうケースがある。
 - ▶ 長期で考えたときに、プレママ、プレパパ、学生、子供たちに対して、家事をシェアしたり育児をシェアしたりする暮らし方が当たり前なのだとすることを根づかせる、次世代の育成が必要であることを提案したい。

(委員からの主な発言)

意見交換での委員等からの主な発言は以下のとおり。

【男性が家事・育児に参画するきっかけづくり】

- 男性がすぐに入れるアクション(入り口)をつくっていくというのがすごく参考になる。三木委員から話があったモヨウ替えの事例も、具体的なアイデアがどんどん見えてくるというのは、非常に能動的に入っていく入り口になる。
- 妊婦体験の動画は、インパクトがありそこから変わっていくこともあると思う。

- ・ 学生による体験はもちろんのこと、独身のボス（男女とも）が部下の、特にワーママの家庭を体験するのが、イクボス養成にも役に立つ。
- ・ 家族というのは自分が生まれ育った家族のモデルで、狭い視野で捉えがちになってしまふ。自分と全然違う環境や役割をこなしている人を実際に見ると、家族の多様性が腑に落ちて分かり、非常におもしろい試みだと思う。

【夫婦間のコミュニケーション】

- ・ コミュニケーションがとれている夫婦の場合は産休、育休をとっているといった、家庭内部の要因のデータがあれば、物事を変えるきっかけになると思う。
- ・ （育児に）継続的に参加するために、夫婦のコミュニケーションをよくするためのツールやテクノロジーは何らか役に立てるのではないか。

【調査会の議論の方向性について】

- ・ 物理的に家事や育児、介護などに関わる時間をつくるためには、企業に訴えるような、働き方改革をやっていかなければいけない。センセーショナルな政策を国からどう働きかけていくのかを、この調査会においていろいろな視点から考えることが重要。
- ・ 育児を中心に考えるのか、介護も含めて考えるのかと、今後、皆様のご意見を伺いながら調査会として方向性を持っていければ。
- ・ 何年計画なのかによって訴求の仕方が変わる。また、意識変革の可能性のある6割の適応型の人に訴求するのか、全く家事・育児を行わない層に主にアプローチするのかを整理したい。

（加藤大臣挨拶）

- ・ 男性の暮らし方・意識の変革は、働き方改革と表裏一体と言える。
- ・ 先日の男女共同参画会議において、議長である官房長官から、効果的な方策について十分議論すること、各省庁において政府として何ができるか知恵を絞り、国民各層に広がる取組へとつなげてほしい旨、指示があり、委員の方々からも多様な意見をいただいた。
- ・ 特に乳児用液体ミルクについては、官房長官から、政府全体として検討するように発言があったことを踏まえ、次回の議題の一つに取り上げることとした。いずれにしても、本専門調査会においては、ぜひ広範な議論をお願いしたい。
- ・ ご専門分野についての積極的なご提案や、新たな発想での、忌憚のないご議論をいただきたい。